

目標達成計画

作成日: 平成23年3月31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	運営に関する利用者、家族等の意見の反映。利用者や家族等の意見、要望を管理者や職員ならび外部者へ気軽に表せる機会を持たず、運営に反映させづらい。	利用者の日ごりの様子を写真集、コメント等を工夫して、年4回家族に情報提供していく。 事業所の意見を積極的に言ってもらい家族もサービスの質の向上への協力者になっていただくようアピールしたい。	利用者情報: 日常生活における何気ない仕草、言葉、行動等を拾い、日々の暮らしの情報を提供していく。 家族が意見や思いを気軽に提案できるようテーマを決め、アンケート用紙の工夫をして暮らしの質の向上を共同作業で気づいていかれる。	12ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援のあり方について、グループホームでの看取りについて重要事項説明書は作成したが、看取りケアの講習については手付かずであり、また経験も踏んでおらず不安である。	看取りケアのマニュアル作り 職員研修(看取りケアに対する共有認識の教育機会の充実) 家族への精神的サポート及び職員の精神的負担(メンタル面) 看護師(グループホームの担当看護師)に相談できる体制作り。 看護師によるケアの提供(医療との連携)	関連病院のグループホーム担当看護師より講習会の機会の依頼を3月にした。 病院での経験を活かした講習会の開催を6ヶ月間で教育していただく。	6ヶ月
3	41	栄養摂取や水分確保の支援について、利用者の超高齢化に伴い一人ひとりの食事量や栄養バランス、水分量が1日を通じて確保できるように、個別の状態や力、習慣に焦点をあてた支援の充実をはかりたい。	利用者一人ひとりの身体的状態の把握、口腔内状態、嚥下機能を考慮した食事形態、量、好みの調理法、補食等の検討をしていき、五感を刺激し食欲の湧くメニュー作成に取り組んでいく。	季節ごとのメニュー(基本)提供に加え、利用者のリクエストを気軽に取り入れられる柔軟な工夫、献立表の「気づき欄」を利用した召し上がりにくいもの、良いもの。 人気のあるもの、ないもの、よく召し上がったもの等をこまめに記入し、それらを考慮しながら提供できる工夫をする。	12ヶ月
4		グループホーム独自のマニュアル作りの構築。現マニュアルは一般的な内容であり、その人らしい暮らしを続ける為の日々の支援に添ったマニュアルが作成されていない。	当グループホームならではの、ケアマニュアルを職員全員で利用者の目線にそった支援に重点を置いて検討した。独自のケアマニュアルを作成していく。	グループホーム塩田独自のマニュアル作成は勉強会の中で、第一段階として、食事、排せつ、入浴、トイレ掃除、洗濯方法の5項目について重点的に話し合い作成していく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。